

小学3年1組 外国語活動指導案

指導者 加藤 君江 ALT Chardene Williams

1 単元名 アルファベットとなかよし ～Our birthday month～

2 題材のねらい

活字体の大文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しみ、誕生月の表を作成することを通して自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

3 授業の構想

小学校外国語教育は平成31年度より5・6年生の教科化及び、3・4年生の外国語活動が完全実施される。本校では本年度より来年度の先行実施に向け、3・4年生は教育課程外ではあるが、昨年度の17時間を35時間に増やして行っている。内容においては、昨年度末文部科学省教育課程説明会で提案された年間指導計画を使用している。以下のふりかえりは3年生の子どもが初めて英語を使って紹介し合った時のふりかえりである。

今日はえい語をつかってしょうかいしたよ。日本語とちがってどきどきしたよ。でもえい語をつかってつたえられたのでよかったなあと思いました。(児童A)

4月から外国語活動を行っている子どもたちは新しく出会う英語を使って、楽しく友だちとコミュニケーションをとっている。指導する際も英語を使って「伝えられた」「できた」というコミュニケーションの場面設定を大切にしている。また、英語を使ってできた達成感を感じるように、単元の内容を子どもたちにあわせて考えながら外国語活動を行っている。

本単元では、アルファベットを題材に行う。新指導要領では(1)英語の特徴やきまりに関する事項(イ)において現在行われている中学校の文字指導が小学校の指導となる。小学校の指導要領では(ア)活字体の大文字、小文字、とある。3年生の子どもたちにとって無理なく英語を使って「できた」という達成感を感じるために以下のような手立てを行いながら授業を構成していく。

相手意識や目的意識が明確になる単元構想の工夫

自分の名前の頭文字カードを英語でやりとりしながら集め、誕生月カレンダーを作成する。最終的には学級に掲示するという相手意識や目的意識を単元の導入で行う。主体的に学習を進めていく上で単元のゴールを明確にすることを大切にしたい。

既習事項を用いて「その場で考えて伝え合う」活動の設定

本単元のゴールは誕生月の掲示物を作成するために、アルファベットの読みを伝え合わなければならない活動を行う。英語を使えた充実感を得るためにはそれまでの慣れ親しみの活動を十分に行っていく必要がある。今回はアルファベットの音声にしっかり慣れ親しませ単元の終末でコミュニケーションを図る活動を行っていききたい。

主体的な学びにつなげる見通しとふりかえりの工夫

目標となるイメージをもたすために教員の誕生月を使ったモデルを示す。このことで見通しをもたせることができる。また、アルファベットは身の回りにたくさん使われており、身近な題材を導入時に使用することで自分たちの生活と密着していることに気付かせ、もっと「読みたい、知りたい」と興味をもたせていきたい。本校では「ふりかえりパスポート」を使用し毎時間の活動のふりかえりを行っている。「何ができたか、何ができなかった、次はどうしたい」のか自分をしっかりふりかえり授業に主体的に望んで欲しいと考えている。教師側は一人一人のふりかえりパスポートを点検分析することで個々をとらえ指導にいかしていく。

4 展開計画（全4時間 本時1/4）

○身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付き、文字の読み方を知る。（1時間目・本時）

○活字体の大文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむ。（2・3時間目）

○文字のカードを使って、自分の姓名の頭文字を伝え合う。（4時間目）

5 本時の学習

(1) ねらい

身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付き、文字の読み方を知る。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 教室や松江市の町中にある身の回りにあるアルファベットを見て、どこに使われているか考える。</p>	<p>・自分たちの身の回りにはたくさんのアルファベットが使われていることを知り、身近な文字であることを意識する。</p>
<p>身の回りにたくさんアルファベットが使われていることを知り、アルファベットの読み方を知ろう。</p>	
<p>2. 既習事項の英語を聞きながら誰のことを質問されているか考え、名前の頭文字にアルファベットが使われていることを知る。</p> <p>3. アルファベットの読み方を聞いた後、似ているアルファベットを探し、アルファベットの形のクイズなどを行いながら、アルファベットを知っていく。</p> <p>4. アルファベットチャンツのリズムにあわせてアルファベットの言い方に慣れる。</p> <p>5. アルファベットブロックを使用しながらアルファベットの形を認識していく。 ①形をとらえながらブロックをおく。 ②子どもたち同士でアルファベットを隠して何のアルファベットかあてる。</p> <p>6. 本時をふりかえる。 →身の回りにはたくさんのアルファベットがあることに気付いた。 →アルファベットを言えるようにしたい。 →自分のクラスのお誕生日表ができたらいいなあ。 →まだ言えないアルファベットがある。 →形に間違えないようにしたいと思います。</p>	<p>・単元の終末でどのような活動を行うのか意識させる。</p> <p>・形を確かめながらアルファベットを発話する。 ・形を確認した後“Hi, Friends!”の補助教材を使用する。 ・形をしっかりとらえた後チャンツにつなげる。 ・アルファベットチャンツを行いリズムとしてとらえる。</p> <p>・感覚・視覚にとらえやすいようにブロックを使用する。 ・形が認識しやすいように表を置き、一度ブロックを置いてから行う。</p> <p>・ふりかえりの場において身の回りにたくさんアルファベットが使われ、自分たちの生活になくはないものだと感じることを大切にして必要感をもたせたい。</p>
<p style="text-align: center;">【評価の観点（気付き）】</p> <p>身の回りにはアルファベットがたくさんあることに気付いたり、アルファベットの大文字とその読み方を一致させたりしている。 （評価方法 発言・行動観察・ふりかえりパスポート）</p>	